



第3回吐山地域学校規模適正化検討協議会が8月21日(金)に開催されました。

会議の概要

今回は、地域住民のみなさんにもご参加頂き、地域にとっての学校・学校にとっての地域の意義役割について話合って頂くことを主テーマにしていますが、小中一貫教育や再編を巡る検討協議会の議論と市教委・行政の動きがかみ合っていないことの論議に大半の時間を要し、また回次を改め、当日予定のテーマについては、引き続き話しあうことになりました。

論議を通じて、小中一貫教育については、『文科省が課題としている子どもの成長に合わせた9年間の義務教育を通じて確かな学力をつけさせたいという思いと、奈良市がここ数年進めてきた小中一貫教育の取組みについて、混同されており、これから、この都祁地域においてどうしていくのか分からない。』地域と共にある学校づくり（CS）については、『都祁地域は昔から学校は教育・コミュニティの中心である。再編することで、課題を生むことになるのではないか。』など、意見がだされ、まだ、保護者はじめ地域住民がイメージできる学校像は見えてきていません。そのため、検討協議会の在り方に対する意見が多数でした。

そんな中で、再編校舎の立地点を現都祁小学校敷地に決定すると表明したり、設計に関する打合せ会を設けたり、平成29年4月目途を独り歩きさせているスケジュール優先・検討協議会軽視に対する批判も多くいただきました。

また、7月27日に行政が示した、『新校舎設計に対する打合せ会』への対応については、吐山地区検討協議会として、意見する段階ではありませんが、その吐山の意見は提起しておく必要がありますので、数名の方に参加して頂くことになりました。

統合再編校教育ビジョンの補足：市教委（教育政策課）説明

○都祁地域における小中一貫教育のあり方について

今後の児童数の推計から、統合再編後の小学校、中学校共に単学級になっていきます。今年度より全市で小中一貫教育を展開しており、その大きな目的は、学びの連続性を大切に、9年間の枠組みで子どもを育てていくことです。小中一貫教育をすすめる上で、小中での指導の方法やカリキュラムを共有していく必要があります。さらに、生徒指導や特別支援教育でも情報を共有させていくことを考えています。

○統合再編小学校の場所の決定について

統合場所については、各地域の皆さまのご意見を参考にしながら、最終的には総合的な見地から判断させていただき、都祁小学校を統合校場所とさせていただきました。平成27年度から全市の公立校で始めた小中一貫教育についても、距離の近い一小一中の環境を生かした教育をすすめてまいりたいと思います。

○コミュニティ・スクールについて

従来の外からの協力ではなく、地域の方が学校組織の一員になり、学校運営に携わっていただくコミュニティ・スクールという制度の取り入れも考えられます。もちろん、地域の皆様のご理解や同意を必要とします。学校の管理職は変わりますが、地域は変わりませんので、取組に継続性が生まれるというメリットがあります。

質疑・意見（○ 出席者 ⇒ 市教委 △事務局）

- 今年出された学校規模適正化の手引きは存続・再編両論併記であるのに、再編ありきの話になっている。
- ⇒ 学校への愛着があるということはよくわかるが、児童数の減少傾向が続く中で、過小規模（児童数100名以下）を解消し、今学ぶ子どもたちの教育環境を向上させるために統合再編を検討している。4つの地域ともにしっかりとご理解いただいた中で進めていきたい。
- 定住対策、子育て支援等の施策なしにその論は理解できない。小中一貫教育のメリットを話されたが、9年間クラス固定で良いのか疑問である。複式には小規模なりの良さもあり、立派に成長している。
- ⇒ 中1ギャップの解消だけが焦点ではなく、9年間の連続性のある教育がこれから目指す方向性である。
- 施設分離型の小中一貫教育を考えているようだが、過去事例でも小中一貫校に走る可能性が高い。中学校の生徒も減り先生も減るなかで、指導体制をどうしていくのか分からない。今までの例では、進学率低下の問題を抱えてきたのが現実でないか。

- ⇒ 今のところ、小中学生が全員集まる施設一体型の学校づくりは考えていない。こども園も含め、都祁の子供たちの成長を見通した教育を進めていきたい。
- 総合勘案して分離型に決めたというがよくわからない。施設一体型と分離型で違いはあるのか。
- ⇒ 小中一貫教育は学びの連続性を大切に、9年間を通して育てて行くという価値観を小中の学校や保護者で共有することにあるので、分離型であっても本質は変わりません。
- 1クラス30人の幼稚園から1クラス7人の吐山に入学させたが、吐山の学校教育、地域の支えに安心している。小中一貫で9年間クラス替えのないことに不安だ。今は放課後も校庭を解放して頂いている。派出所も前にあり安心している。学校が無くなるならこぶしが丘にここに住んでいる意味がない位だ。
- 事務局に聞くと、この検討協議会は統合再編ありきのルールでの検討か。吐山はどうするのか。
- △ 奈良市の学校規模適正化計画の再編検討チームじゃない。これからの少子化に対応できる教育環境づくりの観点で吐山の意見を具申するための話し合いの場として設置したものである。
- そのスタンスでいて欲しいが、本日の配布資料に人事異動まで課題としている。こういうもので現場を浮足立たせてしまっている。文科省の手引きが示すように、学校が果たす地域コミュニティの役割からしても吐山とこぶしが丘の一体感のある町づくりの要に学校があり、子どもにとつても、地域にとつても掛け替えのない存在である。
- 学校規模適正化の取組みは10年前からというが、庁内の一室で、地域に開かれた検討はされてきていない。これから議論を重ねることが必要。協議会が説明実績づくりの場として用いられるだけなら止めたらいい。
- バンビーホームの世話をしてくれている。保護者も不安を抱いているが、配布資料の中で課題にも挙げていない。貴職に対して疑心暗鬼になる。
- ⇒ バンビーホームについて、本日の説明の中では申しあげたが、資料の中で課題に挙げていないのはミスである。保護者にとって心配事の1つであると思うので、ご意見を伺いながら、利便性や安全性を確保していきたい。
- 現小学校づくりは、地域の人々の大変な理解協力があったこと。再編となると跡利用が大きな課題だ。
- ⇒ 教育委員会だけでなく、関係部局も入った形で協議させて頂く。
- 学校は子どもの自立性、心豊かに生きる力を育てる場であると同時に、地域の将来を担う人材を育てる場であり、多様な人間関係・経験で育む必要があり、学校だけではできない。地域支援は欠かせない。同時に、吐山は、学校・保護者・地域の三角関係を基盤に地域コミュニティがある。
- 奈良市は、検討協議会の意見を聞いてと言いながら、27年度設計、29年再編目途と言い、勝手に進めている。7月27日の4地域の検討協議会長会議はどうだったのか。
- ⇒ 他の3地域は、市の再編計画に時期も含めて前向きに検討すると言って頂いていると判断している。
- △ 他地区の会長との話では、跡地問題も同時解決の課題、四校の足並みが揃うことを条件と考えている点は共通認識と考えている。従って、再編時期ありきにはなっていない。
- 吐山は、概ね何も了解していない。どう見ても再編時期を独り歩きさせている。吐山はこれからの学校づくりの根幹論議が重要と言っている。
- ⇒ 再編時期についての考え方は、議会での答弁のとおりである。地域のみなさんと協議・理解頂いて進めたい。

統合再編する場合の校舎大規模改修事業打合せ会への対応

中島会長から、次のとおり説明を受けた。

7月27日、四校区の検討協議会会長に対し、市教委から、再編する場合の立地点は、市として総合勘案の結果、『現都祁小学校敷地』と決定した。校舎設計に関して地域の意見を伺うため、『打合せ会』を設置するので、各校区から代表者数名を選任頂き、参加頂きたいという要請があった。

吐山としては、これからの学校づくりのビジョン・方針がまだ共有できていない段階であるが、

- ① 四校区の足並みが揃っていないとは思えないし、地点・設計を急ぐ理由が解らないが致し方ない。

打合せ会の場で意見する。

- ② 再編時期は、保護者も地域も跡地利用のことまで含めて納得してからのことであり、29年4月目途が一人歩きして、時期先行で、良い学校創りを飛ばしてはいけない。[他の会長も同じ]

引続いて出席頂く方の選任に移り、中島会長、的場自治連合会長、保護者はPTAから3名、学校関係者は井上校長、もう1名学校のことに詳しい方=会長一任で決定。

今後について

◇第4回学校規模適正化検討協議会の開催日時テーマについては、改めて委員にお知らせします。

お問い合わせ先：幹事〔中島、保仙〕 / 奈良市教育委員会事務局教育政策課（Tel.34-5386）